

# 「再構築」の目的・作成・評価等について

「元ポートフォリオ」を活かし、再構築しA3 サイズの紙(別に提出用紙あり)に表現する。それが提出する『凝縮ポートフォリオ』となります。

## ■「再構築」の目的

知識の修得ではなく、コンピテンシー(知識を現実を活かせる力)がこの講義の目的である。これまでの講義や自主的な学びにより獲得した知識を再構築し、他者へ役立つことを使命としわかりやすく伝えることで普遍的な力になる。それが再構築の目的である。

## ■ 提出について

- 別紙の A3 サイズの提出用紙を使う。
- 提出したものは返却できないので、控えの完全なコピーをとっておく。

## ■全体構成について

全体構成(レイアウト)は自由。ただし『私の提案』は、所定の枠の中に書く。ほかの『現状、課題、根拠』や『課題解決策=具体的な提案』などは、読み手のことを意識して効果的なレイアウトとする。

## ■必須条件

### 1, 「自分の意志ある提案」であること

- あくまでも自分自身の課題意識や視点がベースにある提案であること
- 自分自身の具体的なエピソードから展開することが望ましい。

### 2, 「根拠ある情報」を添えること

「根拠ある情報(数字、固有名詞、月日)」などを必ずそえること。出典、日付を添えること、インターネットからの引用は全体の一部であること名称、URL、月日を添えること。

### 3, 全体構成とビジュアル(概念図など)について

文字だけで全体を埋め尽くすことなく、紙面の全体構成が思考の構造化であること。  
概念図、写真、円グラフ、比較表など必ず“ビジュアル表現”を含めること。

### 4, 「解決策」をふまえ『具体的な提案』を添えること

現状の課題や問題点を明確にし、その解決策や対策を『具体的な提案』として表現すること。  
『具体的な提案』は、抽象的でなく現実的で具体性を備えていること、実行可能なこと。

### 5, 「元ポートフォリオ」を活かすこと

元ポートフォリオに入っているこれまでの講義から得たこと(知識・情報・見方・切り口、手法、気づきなど)を活かすこと。

## ■作成ポイント

- 対象がハッキリしていて、そのテーマが絞れている
- 見た人の役に立つ内容であること
- 読み手を意識した構成デザインであること
- 色や罫線を使いすぎない
- わかりやすさ見やすさを考慮した字の大きさ、頭揃えなど

## ■凝縮ポートフォリオへの「評価の観点」

「凝縮ポートフォリオ」は、上の必須条件をふまえた上で次のような視点で評価します。

### 『 評価の観点』

A1 テーマが絞れていて、考えが明瞭か -- テーマに必然性はあるか。

それは自分ごとであり、自分の考えであるか。

A2 そこに根拠があるか -- 課題は明確化されているか

課題解決策に自分の考えや判断があるか。

根拠ある情報が適切に使われているか。

A3 ロジカル性はあるか -- 全体が構造化され展開性があるか

だらだらと文章が続くことなく

テーマ、現状の課題、解決策(具体的な提案)の各要素が

構成的に展開させているか。

A4 分かりやすい表現か -- 他者が見ても十分理解できる内容か

概念図やビジュアルと文章が適切に使われているか。

いいたいことがすっきり分かる表現か

A5 社会への貢献性はあるか -- 課題に対しベストな解決策を提供しているか

それは他者の役に立つか

1人よがりではなくバランスのとれた提案か